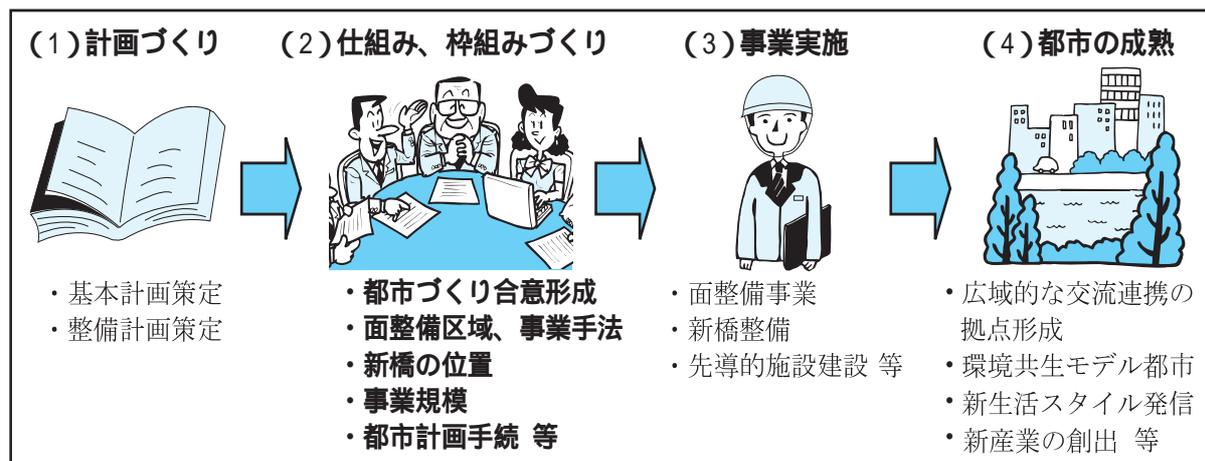


第2章 ツインシティの都市づくりのシナリオ

1 都市づくりのシナリオ

ツインシティの都市づくりを次の四つの段階で進めていきます。



(1) 第一段階は、「計画づくり」を行います。(ツインシティ整備計画策定まで)

- ツインシティの都市づくりの内容を「基本計画」(平成12年3月策定)、「整備計画」(平成14年4月策定)としてまとめます。
- 「基本計画」では、めざす都市像や土地利用、交通に関する基本方針を示しています。
- 「整備計画」では、基本となる考え方や都市づくりのシナリオ・骨格等を示しています。

(2) 第二段階は、「仕組み、枠組みづくり」を行います。(都市計画決定まで)

- ツインシティの整備に向けて、地権者(住民、事業者、農業生産者等)とのきめ細かな協議を重ね、面整備の区域、事業手法、事業主体、新橋の位置等を定めていきます。(この段階で事業規模や県・市町の役割分担が固まります。)
- その後、環境影響評価や都市計画の手続きに入っていきます。
- 第二段階は、概ね5年間を目標に取り組んでいきます。

(3) 第三段階は、「事業実施」です。(都市計画決定からまち開きまで)

- 面整備や新たな道路橋の整備など、様々な事業を実施します。
- 新橋の完成、面整備の概成、先導的施設の完成など、ツインシティが新しい都市としてスタートを切る「まち開き」の目標を2015年とします。

(4) 第四段階は、「都市の成熟」していく段階です。(まち開き以降)

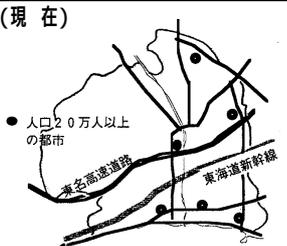
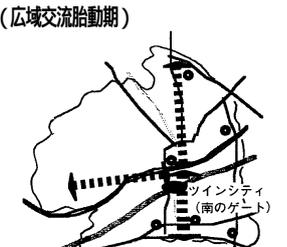
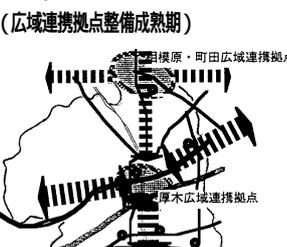
- まち開きの後、ツインシティにおいて人・もの・情報の活発な交流が繰り広げられ、広域的な交流連携の拠点として、また、環境共生モデル都市としてツインシティが成熟していきます。

2 ツインシティ整備と都市圏形成の流れ

ツインシティの整備については、長期的展望である「県央・湘南都市圏整備構想」の計画的かつ効果的な展開を進めていく中で、現在進められている広域交通網整備と十分な連携を図って実施します。

こうした都市づくりによって、県央・湘南都市圏が首都圏の西の玄関口としての機能が高まり、都市圏全体の利便性の向上と新たな活力の創造につながります。

そして、広域交通網整備やツインシティ整備にあたっては、相模川や都市の中に残された貴重な自然空間を生かし、環境負荷の少ない都市づくりを進めます。

都市圏形成の流れ		年次	ツインシティ都市づくりのシナリオ	新駅誘致活動
<p>（現在）</p>  <p>人口20万人以上の都市</p> <p>東名高速道路 東海道新幹線</p> <p>（骨格形成期）</p>  <p>広域交通網の一部開通</p>	<p>相模川を基軸とする、海、川、山の豊かな自然東京から放射状の交通網をもとに市街地を形成</p> <p>20万人以上の都市が都市あり、我が国有数の産業集積エリア</p> <p>長期的展望（県央・湘南都市圏整備構想）に基づき、広域交通網整備や南北ゲート形成を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海道新幹線の駅誘致活動の強化 ・ツインシティの整備促進 ・さがみ縦貫道路、第二東名等の整備促進 ・JR相模線の駅行違い施設の整備促進 ・リニア中央新幹線の県内誘致活動の推進 	2001年	<p>（第1段階）</p> <p>【ツインシティ基本計画の策定】</p> <p>（第2段階）</p> <p>【ツインシティ整備計画の策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市づくりの合意形成 ・都市づくり推進組織の創設 ・事業主体、手法の決定 <p>（第3段階）</p> <p>【都市計画決定】【事業認可】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新橋整備 ・面整備 ・相模川の保全と整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・新駅誘致地区の一本化 ・新駅誘致活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・新駅誘致活動の強化 ・新駅が誘致できたときの用地確保の検討など
	<p>（広域交流胎動期）</p>  <p>広域交通網の開通 JR相模線輸送力増強</p> <p>（広域連携拠点整備成熟期）</p>  <p>相模線の複線化 相鉄いずみ野線の延伸</p>	<p>都市圏の骨格を形成する広域交通網がほぼ整備</p> <p>南のゲートとなるツインシティの実現</p> <p>広域交流、南北交流の活性化</p> <p>南北ゲートにおける都市づくりが進み、これを核とする厚木広域連携拠点、相模原・町田広域連携拠点を形成</p>	2015年	<p>（第4段階）</p> <p>【ツインシティのまち開き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新橋の完成 ・面整備の概成 ・先導的施設の完成 <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な交流連携の拠点形成 ・環境共生モデル都市として様々な試み、全国へ発信 ・人と地球に優しい交通システム稼働 ・環境共生ライフスタイルの展開 ・ツインシティからの新技術 ・ビジネスの発信、人材輩出など

県と期成同盟会では、以上のシナリオに基づきツインシティを整備するのに合わせて、周辺都市とのアクセス整備を図り、ツインシティを広域的な交流連携の拠点として活力と魅力にあふれた都市とすることにより、東海道新幹線新駅の誘致が実現するものと考えています。

3 2015年の都市圏像

新橋の完成、面整備の概成、先導的施設の完成などツインシティが新しい都市としてスタートを切る、まち開きの目標年度である2015年は、県央・湘南都市圏の人口のピークを迎える時期ですが、その後も世帯数の増加が見込まれています。

(現在270万人→297万人：津久井地区を含む都市圏の人口)

その頃、広域交通網の整備では、都市圏の中央を南北に貫くさがみ縦貫道路(圏央道)などが完成し、都市圏の自動車交通の流れが変わってきています。

そして、JR相模線は、車両の行違い施設の整備が進み、現在よりも短い時間で相模原市と茅ヶ崎市との間を行き来することができるようになっていきます。

また、相模川の保全・整備と併せて、県立茅ヶ崎里山公園やさがみグリーンラインなどの整備が進み、都市の中の緑や憩いの空間が増えています。

こうした時期に、県央・湘南都市圏の南のゲートであるツインシティのまち開きが実現すると、これを契機として、仕事や旅行でツインシティや周辺都市を訪れる人々が段々に増えていき、JR相模線の複線化や相鉄いずみ野線の延伸、リニア中央新幹線の停車駅誘致などへの動機づけや、厚木業務核都市や綾瀬市のタウンセンター計画をはじめとする周辺都市の活性化に効果が上がるものと考えています。

また、東海道新幹線新駅の誘致活動やツインシティの都市づくりをきっかけに開始した都市圏内全ての自治体が協働して推進する環境と共生する都市づくりによって、環境関連分野などの新しい産業が開花して、全国に誇れる持続可能な活力と魅力のある都市圏になるものと考えています。

こうした長期的な展望のもとに、ツインシティの都市づくりを県民、企業、行政の三者の協働のもとに進めていきます。

さがみ縦貫道路

(寒川北インターチェンジ完成予想図)



(提供：国土交通省横浜国道工事事務所)

- ・首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の一部を形成する道路
- ・延長約34 km（茅ヶ崎市～城山町）
- ・2007年度末の完成をめざしている。

県立茅ヶ崎里山公園

(風の広場、風の滑り台)



- ・里山の自然を生かした都市公園
- ・計画面積：36.8ha（2001年10月に一部開園済み）
- ・2009年春に全面開園を予定している。

厚木業務核都市

(東名厚木インターチェンジ周辺地区)



(提供：厚木市)

- ・広域的な連携・交流の要となる都市づくり
- ・本厚木駅周辺地区、東名厚木インターチェンジ周辺地区などが業務施設集積地区として位置づけられている。

綾瀬市のタウンセンター計画

(センター区のイメージ図)



(提供：綾瀬市)

- ・都市機能の総合的集約による中心市街地づくり
- ・計画面積：約101ha
- ・現在、2つの土地区画整理事業が進められている。